Climb
クライム

川野小児医学奨学財団
2023年度 事業報告書

みんなで
のりこえる。

みんなでのりこえる。

川野小児医学奨学財団は、病気で息子を亡くした父親の
「病に苦しむ子どもを減らしたい」という思いからはじまりました。
1989年に設立され、30年以上にわたって、
小児医学の支援に取り組んでいます。

子どもの病気に関する研究への助成や、
小児科医を目指す医学生への奨学金給付、
小児医療施設のサポートなどに取り組むなかで感じてきたのは、
子どもをとりまく問題の解決には社会全体の力が必要だということです。
医学が進歩し、乳幼児の死亡率は減っていますが、
いまだ解明されない小児の難病の存在や
特別なケアが必要な子どもの増加など問題は尽きません。

さまざまな立場や役割の人たちといっしょに、
子どもたちが直面している問題を、みんなでのりこえる。
私たちは一歩ずつ、歩みをすすめてまいります。

interview

3人一緒が いちばん、いい。

鳴原 矢真人（父） 遥（母） 椛蓮（娘 1歳）

もうすぐ2歳になる鳴原椛蓮（かれん）ちゃん。生まれた時からうまく呼吸ができず、生後4ヶ月で気管に穴をあけて肺に空気を送る気管切開の手術を行った。口から上手に栄養をとれないため、お腹に「小さな口」をつくって栄養補給する胃瘻も行っている。医療的ケアが必要な毎日ではあるが、成長にともなって日に日にできることが増えている椛蓮ちゃん。そしてそれを温かく見守る両親の姿があった。

異変に気づいたのは、出産の3ヶ月ほど前。かかりつけのクリニックでの検診で、羊水が多いことを指摘されたのだ。赤ちゃんの胃が小さくてうまく飲めていないからではないかと大きな病院で超音波検査を行ったが、特に問題は見つからず。しかしその後、胎動が小さいことがわかったり、心臓などに病気があるかもしれないといった、いろんな不安要素が次々に出てきたという。
「いくら検査をしても、どの原因もはっきりしないんです。最終的には『生まれるまではわからない』という状態に。早産の可能性があったので入院をしていたのですが、ちょうどコロナ禍で面会も制限されていて。家族ともなかなか会えず、一人で不安な時間を過ごしましたね」（遥さん）

予定よりも1ヶ月ほど早い出産となり、小さく生まれた椛蓮ちゃん。呼吸が安定せず、すぐにNICU（新生児集中治療室）に入ることに。当初は1週間ほどの入院の予定が、いくら検査をしても原因がわからないことから、入院期間はどんどん延びていった。
「その頃は椛蓮に会えるのは30分の面会が週に2回だけ。私は毎日搾乳してNICUの隣の部屋まで届けるのですが、顔を見ることすらできないんです。日々の様子も看護師さんから教えてもらうだけ。病院内で赤ちゃんを抱っこしているお母さんを見るたびに辛くてしょうがなかったですね」（遥さん）
「帰れる日は絶対にくるからって、毎日2人で話してね」（矢真人さん）

家に帰れるようになるためには、まずは呼吸を安定させないといけない。そのために必要なのが、気管切開の手術だった。
「正直なところ、最初は体に穴をあけてしまうことに抵抗がありました。でも、やらないと救えないんだなと思って」と遥さん。矢真人さんも「いつ退院できるのか先が見えない中で、手術は不安だったけど、僕らには大きな光でもありました」と振り返る。

無事に手術が終わると、一時的にだが椛蓮ちゃんは初めて自宅に帰ることができた。その後、胃の手術も行って、栄養がとれるように。椛蓮ちゃんが生まれてから6ヶ月、念願だった3人での新しい生活がやっとスタートした。

「抱っこしたり、一緒に寝たり、入院中にはできなかった当たり前のことができるのが、何より嬉しかった」と遥さん。椛蓮ちゃんも日に日にいろんな表情を見せるようになった。「音が鳴るおもちゃが好きなんだなとか、怒っているなとか、声は出ないけどわかるようになったんです。病院から戻った時はルンルンしていて、ああ、おうちが好きなんだなって」（遥さん）。「仕事から帰ってきたら添い寝をするのが僕の日課なんですが、コロコロと転がってくるんですよ。探しているのかもしれませんね」と矢真人さんが嬉しそうに話すと、「帰ってきたなって、椛蓮はわかっていると思うよ!」と遥さんが続ける。そんな2人のやりとりをなんだか楽しそうにじっと見ている椛蓮ちゃん。

気管切開をすると、体の中に入れた管から定期的に痰を吸引しなくてはいけなくなる。外出する時もそのための装置を持ち歩かねばならず、どうしても荷物が多くなってしまう。それでも最近は近くの公園やパン屋さんなどに家族で出かけ、息抜きをするのが楽しみとなっている。少し前には旅行にも出かけた。
「人が多い旅行先の場所で大きな荷物を抱えながら、

周囲に迷惑をかけないように、痰の吸引をしていたんです。そうしたら、それに気づいて『何かお手伝いしましょうか？』と声をかけてくれた人がいて。最初はとっさに断ってしまったのですが、私たちの様子を見かねてまた声をかけてくれて、人の少ない広い場所を案内してくれたんです。申し訳ないなと思いつつも、気づいて声をかけてくれたことがすごく嬉しかったです」（遥さん）

椛蓮ちゃんのような医療的ケア児を取り巻く環境は、「当事者にならないと見えてこないことがたくさんある」と２人は話す。日々のちょっとしたことでも声をかけてもらうと嬉しい半面、「されすぎても気を遣ってしまう部分は正直あると思う」と矢真人さん。「ただ、例えば子ども用車いすというものがあって、ベビーカーとは似ているけど畳むのが難しいものだと知っている人が増えたら、子ども用車いすの利用者さんは電車やバスの中でそういったものをもっと使いやすくなると思うんです。だから、理解してもらうことは難しくても、少しでも知ってもらえたら嬉しいなって思います」（遥さん）

現在は管の交換などもあり月に2、3回は受診しているが、椛蓮ちゃんの病気の原因についてはっきりしたことは何もわかってはいない。まだ首もすわりきっていないし、親指が内側に入り込んでいるのを治療したり、難聴傾向があるため耳の手術を行う予定もある。「僕らとしては、いずれ原因が見つかるという希望的観測でいます。椛蓮の成長を待ちながら、できることを増やしていければ。常に希望を失わないような考え方に持っていくようにしています」（矢真人さん）

病気とたたかっている椛蓮ちゃんだが、矢真人さんは「ハンデだとは思っていない」と話す。子育てにはいろんな苦労がつきもので、椛蓮ちゃんの場合は他の子とはちょっと違う困りごとがあるだけ。特別だとか、他の子とは違うとか、そんなふうに考えたことはない。「目が悪い人がメガネをかけるのと一緒かなって。それのちょっと大きいバージョン」（遥さん）

少しずつだが体重も増えてきて、成長曲線にもギリギリ乗ってきた。「マイナスからのスタートだったので、この後は全てにおいて良くなるしかないと思っています。このままずっと家にいてくれたら。それだけが望みかな」と矢真人さんが話せば、遥さんも「原因が見つかったらいいけど、3人が病気をしないで、このままの生活が続けばいいな」と笑顔で話してくれた。

浅野（あさの） 祥孝（よしたか）先生

医療法人越魂会かわごえファミリークリニック　理事長

椛蓮ちゃんの往診を担当しています。椛蓮ちゃんのご自宅を訪問すると優しい時間が流れているのをいつも感じます。この優しい時間がずっと続いていくように、社会全体が個々のできる範囲で自然にサポートできるようになると良いですね。

Annual Report 2023

事業内容と2023年度のご報告

すべての子どもたちが心身ともに健やかに成長してほしい。そんな社会を目指し、川野小児医学奨学財団は6つの事業を行っています。2023年度の活動を数値とともにご報告します。

1 研究助成

49名 7,148万円

小児医学・医療の進歩とともに救われる命は増え、子どもたちの健康は確実に守られてきています。しかし、解決すべき問題はまだたくさんあります。当財団では、小児疾患の原因究明・治療・予防などに関する研究の発展を支援するため、1990年から小児医学研究者に対して助成金の交付を行っています。2007年には、若手研究者の活躍を後押しするために40歳以下の研究者を対象とする若手枠も設けました。一般枠は1人300万円、若手枠は1人100万円を上限として、助成金を交付しています。

2 奨学金給付

28名 2,352万円

「小児科医になって、子どもたちを支えたい」そんな高い志を持ちながらも、経済的な理由によって進学を諦めてしまう学生がいます。
当財団では1990年から、小児医学を志す医学生および小児医学研究に従事している大学院生に対して奨学金事業を行っています。2021年からは埼玉県に加え、千葉県内の高校を卒業した方も対象としています。また、昨今の物価上昇をかんがみ、2023年からは月額を7万円に上げ、正規の最短修業年限以内において給付をします。奨学生は当財団開催のイベントを通じて、実際に活躍している小児医学研究者から直接学ぶこともできます。

3 小児医学川野賞

3名 300万円

財団設立10周年を記念して、1999年に創設した小児医学川野賞。
優れた業績を挙げ、学術の進歩に貢献した小児医学研究者を表彰しています。“小児医学のさらなる発展を”との願いから、受賞後も小児医学への貢献が期待される55歳以下の研究者を対象としています。受賞者には賞状、賞金100万円とトロフィーが贈呈されます。創設当初は基礎医学、臨床・社会医学の2分野からの選出でしたが、2019年からは基礎医学、臨床医学、社会医学の3分野にて選出をしています。

4 医学会助成

13件 750万円

熱心な研究者が集い、研究発表や意見交換を行う医学会。
当財団では、小児医学におけるさまざまな専門分野の発展を願い、1992年から日本国内で開催する小児医学に関する医学会に対して助成金を交付しています。現在では1件70万円を上限として助成しており、毎年多くの医学会よりご申請をいただいています。小児医学研究者の知識の共有や技術の進歩を支える取り組みとなっています。

5 小児医療施設支援

11件 1,134,929円

入院や入所をしている子どもたちにとっては、病院や入所施設がまさに生活の場。そういった子どもたちのQOL(生活の質)を高めることは大切ですが、医療機関や施設がそのための予算を十分に確保するのは簡単ではありません。そこで1995年から、設備やボランティア活動を充実させるための費用に対して助成金を交付しています。2022年からは埼玉県に加え千葉県内の施設も対象とし、1件15万円を上限として、おもちゃや絵本、オンライン面会用の通信機材などの購入にお使いいただいています。

6 ドクターによる出前セミナー

13件

子どもたちの命や健康を守るために、学校現場や保育園、幼稚園などにおいても、医学的に適切な対応が求められるようになってきています。
財団設立30周年を記念して2019年にスタートしたこの事業では、学校や保育園などで小児保健に従事する方たちが開催する研修会に対して、当財団が仲介役となり、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣しています。2021年からは、養護教諭が実施する研修会に加え、就学前教育・保育施設の看護職従事者が実施する研修会にまで講師派遣対象を拡大しています。

1 研究助成

2023年度は一般枠60名・若手枠53名の応募がありました。2023年3月11日に開催した選考委員会の結果、一般枠23名・若手枠26名の計49名の研究者に総額71,484千円の助成金を交付しました。2024年3月2日には都内会場にて対面形式の助成研究成果発表会を開催しています。

交付者一覧

■ 一般枠23名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額（千円）
水野 賀史	福井大学子どものこころの発達研究センター 「子ども発達脳プロジェクト - 多角的アプローチによる神経発達症の病態解明と客観的診断法の開発 -」	3,000
赤羽 弘資	山梨大学大学院総合研究部医学域小児科・新生児集中治療部「予後不良なTCF3-HLF陽性急性リンパ性白血病の抗がん剤耐性を克服する新規治療法の開発」	3,000
渡辺 紀子	東京医科大学分子病理学分野 「小児病理解剖における形態異常とゲノム異常の照合 - 遺族への有意義なフィードバックのために有効なゲノム解析手法ならびに最適な病理解剖ワークフローの探索 -」	3,000
辻 章志	関西医科大学小児科学講座 「微小変化型ネフローゼ症候群モデルラットに対する球形吸着炭を使用した腸管内尿毒素物質除去による抗タンパク尿効果を期待した新規治療法の開発」	3,000
石森 真吾	高槻病院小児科、臨床研究センター腎疾患研究室 「レニンアンギオテンシン系に着目した早産、低出生体重児の腎障害進展機序の解明研究」	3,000
永井 礼子	北海道大学病院小児科 「Drug delivery systemとdrug repositioningを活用した、肺動脈性肺高血圧症の新たな治療法の創出」	3,000
山口 宏	神戸大学大学院医学研究科小児科 「有熱性てんかん重積・急性脳症の疾患関連遺伝子探索による病態解明」	3,000
宮原 弘明	愛知医科大学加齢医科学研究所神経病理研究部門 「乳幼児の予期せぬ突然死（SUDI）における「原因不明の突然死」の原因究明」	2,400
日衛嶋 栄太郎	京都大学医学部附属病院小児科「小児期発症潰瘍性大腸炎の診断と病勢評価に有用な新規バイオマーカーの開発～抗インテグリンαVβ6自己抗体の小児潰瘍性大腸炎における有用性の評価と同抗体陽性クローン病の分子病態解明～」	2,400
木戸 高志	大阪母子医療センター心臓血管外科 「右室流出路狭窄を伴う先天性心疾患における右室心筋ミトコンドリア機能の解析」	2,256
末永 忠広	北里大学医学部免疫学 「TORCH症候群におけるウイルスの胎盤通過メカニズムの解明」	2,400
細澤 麻里子	国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター 「コロナ感染拡大期における子どもの精神的問題の実態と予測モデルの構築」	2,296

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

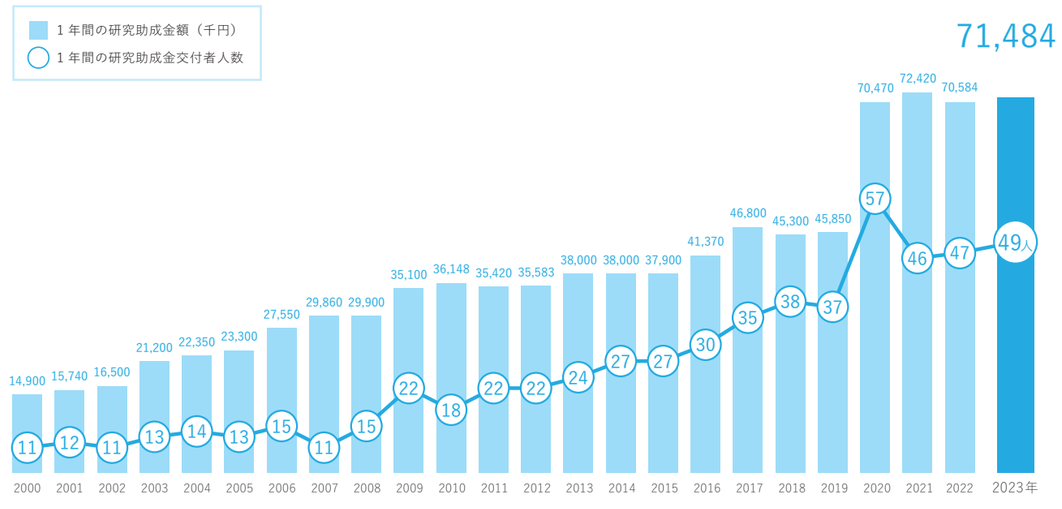
氏名	所属機関「テーマ」	交付額（千円）
松下 祐樹	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科細胞生物学分野 「骨格幹細胞を基軸とした軟骨無形成症の病態解明と治療戦略」	2,400
竹本 さやか	名古屋大学環境医学研究所 「ゲノム解析知見に基づく神経発達症の新規病因・病態解明」	2,400
佐藤 恵美子	東北大学薬学部 「統合オミックスによる低出生体重児の腎成熟改善法の探求」	1,250
柴 徳生	横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学 「Cellular hierarchy予測に基づいた小児急性骨髄性白血病のheterogeneityの実態解明」	1,500
飯島 崇利	東海大学医学部基礎医学系分子生命科学 「胎児・新生児医療による自閉スペクトラム症の根治的治療の開発」	1,500
松本 征仁	順天堂大学難病の診断と治療研究センター 「細胞運命変換による自己免疫疾患を起因とする小児糖尿病の根治開発と病態再生」	1,500
篠原 務	名古屋市立大学大学院新生児小児医学 「先天性心疾患に伴う肺血管病に対する治療薬の開発 - 病的高シェアストレスをターゲットにした治療戦略 -」	1,500
長町 安希子	広島大学原爆放射線医科学研究所附属放射線先端医学実験施設「SAMD9/9L症候群の主症状である先天性造血不全を惹起するTGF-betaシグナル異常の解明」	1,500
荒木 敏之	国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第五部「シャルコーマリートゥース病のヒト細胞モデル構築による治療薬探索研究」	1,500
清水 秀二	国立循環器病研究センター研究推進支援部 「ファロー四徴症患者における新規microRNAバイオマーカーの開発」	1,500
鞍嶋 有紀	島根大学医学部小児科 「遺伝学的素因および栄養的素因双方から探る網羅的な成長障害病態探索研究」	1,400
	小計	50,702

■ 若手枠26名

氏名	所属機関「テーマ」	交付額（千円）
伊藤 正道	東京大学医学部附属病院先端臨床医学開発講座 「iPS細胞由来ミニ心筋組織を用いた特発性拡張型心筋症の治療候補化合物探索」	1,000
豊田 優	防衛医科大学校医学教育部医学科分子生体制御学講座 「腎性低尿酸血症の病因のさらなる理解：小児例を含む臨床遺伝学的解析と分子機能解析を通じた新規病因変異／原因遺伝子の探索と同定」	1,000
大谷 理浩	岡山大学病院脳神経外科「一細胞解析による、びまん性正中神経膠腫のcell-of-originの違いが腫瘍微小環境に与える影響の解明と、新規免疫療法の開発」	1,000
岡田 清吾	山口大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター「川崎病および冠動脈病変発症における自然リンパ球（Innate Lymphoid Cells：ILCs）の関与」	1,000
彭 戈	順天堂大学大学院医学研究科皮膚科学・アレルギー学講座「上皮成長因子受容体のリガンドであるベータセルリンに着目したアトピー性皮膚炎の新しい治療法の開発」	1,000
西川 将司	名古屋大学大学院理学研究科生命理学領域 「知的障害責任分子RhoGの神経発達障害メカニズムの解明」	1,000
升井 大介	久留米大学病院外科学講座小児外科部門 「食道機能検査による小児消化器症状の病態の可視化とエビデンスに基づいた治療法の確立」	990
川岸 裕幸	信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所バイオテクノロジー部門「アンジオテンシン受容体の新規生理作用を利用したFirst-in-classの小児心不全治療法の創出」	1,000
添田 修平	立命館大学薬学部 「Prader-Willi症候群における自閉スペクトラム様症状の原因遺伝子の探索と病態解明」	1,000
瑞木 匡	京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学「新たな非侵襲的な呼吸モニタリング法を用いた、「肺」だけでなく「脳」にも優しい早産児人工呼吸器管理法の確立」	1,000
前川 正充	東北大学病院薬剤部 「ニーマン・ピック病C型の病態形成機構・新規創薬標的経路の解明を目的としたモデルマウスにおける時系列的ターゲット／ノンターゲット統合マルチオミクス解析」	1,000
森田 篤志	筑波大学附属病院小児科 「小児期発症炎症性腸疾患における初発時の腸管バリア機能と免疫学的特徴からみた治療応答性の個人差」	1,000
牧瀬 尚大	千葉県がんセンター臨床病理部 「ナノポアシーケンサーを用いた小児肉腫に対する統合診断」	800
久世 祥己	岐阜薬科大学生体機能解析学大講座 薬効解析学研究室「循環不全に伴う臓器機能障害機構の解明およびヒトオルガノイド培養系を活用した新規治療法の開発」	800
藤田 幸	島根大学医学部医学科発生生物学 「神経発達障害の分子メカニズム解明」	800
春松 敏夫	鹿児島大学小児外科 「臍帯血分析による胆道閉鎖症の免疫学的病因解明と発症予防へ向けた多施設共同研究」	792
松川 敏大	北海道大学大学院医学研究院血液内科学教室 「CRISPRライブラリーによる小児難治性NUP98::NSD1白血病の治療抵抗性機序の解明」	800
芳賀 光洋	埼玉医科大学総合医療センター小児科 「早産児の未熟肺に対する人工呼吸器による機械的ストレッチの影響」	800
岡 秀治	旭川医科大学小児科学講座 「先天性心疾患術後の心室内血流動態を4D flow MRIで紐解く」	500
中島 公子	群馬県立小児医療センター循環器科「Gd-EOB-DTPAを用いた造影肝臓MRI検査によるフォンタン関連肝臓病の評価と肝硬変進展様式の病態解明」	500
赤川 友布子	関西医科大学小児科学講座 「クランベリーが過活動膀胱を有する小児の尿中細菌叢に及ぼす影響の検討」	500
王 飛霏	高知大学医学部附属先端医療学推進センター 「臍帯血細胞を用いた新規脳性麻痺治療法の確立と神経ネットワーク可視化による神経新生メカニズムの解明」	500
酒巻 太郎	神戸大学内科系講座小児科学分野造血幹細胞医療創成学「マウスモデルを用いた生着不全のない造血幹細胞移植法の確立」	500
新野 一眞	埼玉病院統括診療部 「国立病院機構の大規模診療情報データベースを利用した、起立性調節障害の記述疫学研究」	500
吉永 清宏	新潟大学大学院医歯学総合研究科地域精神医療学寄付講座「中学校におけるいじめ予防・介入プログラムの有効性評価RCT研究～Niigata Ijime Prevention and Intervention Program（NIPIP）～」	500
清水 翔一	日本大学医学部小児科学系小児科学分野 「低出生体重仔の成獣期の糖尿病性腎症発症機序の解明とタウリンによる予防効果」	500
	小計	20,782

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

これまでの実績［研究者に対する研究助成金と交付者の推移］



※1990年から開始　※2020年は新型コロナウイルス感染症に関する研究助成を含む　※交付決定後の辞退者を含む

2 奨学金給付

2023年度は19名の応募があり、選考委員による書類審査および理事長による面接選考の結果、新規9名の医学生に対する給付を決定しました。継続19名と合わせて計28名の医学生に対して、総額23,520千円の奨学金を給付しました。2023年9月9日にはヤオコー本社（川越市）にて、奨学生証書授与式を対面形式にて開催しました。

奨学生に贈られる楯

奨学生証書授与式の様子

給付者大学一覧

■ 新規給付9名

大学名	人数	年間給付額（千円）
埼玉医科大学	1	840
滋賀医科大学	2	1,680
順天堂大学	1	840
昭和大学	1	840
東京女子医科大学	1	840
富山大学	1	840
広島大学	1	840
北海道大学	1	840
	小計	7,560

※五十音順

■ 継続給付19名

大学名	人数	年間給付額（千円）
大分大学	2	1,680
杏林大学	1	840
慶應義塾大学	3	2,520
国際医療福祉大学	1	840
滋賀医科大学	1	840
順天堂大学	1	840
東京医科大学	1	840
東京慈恵会医科大学	1	840
東京女子医科大学	2	1,680
東北医科薬科大学	1	840
東北大学	1	840
獨協医科大学	2	1,680
日本大学	1	840
福島県立医科大学	1	840
	小計	15,960

※五十音順

急激な物価上昇に対応した支援の強化

医学生に対する
奨学金年間増額

12万円/人

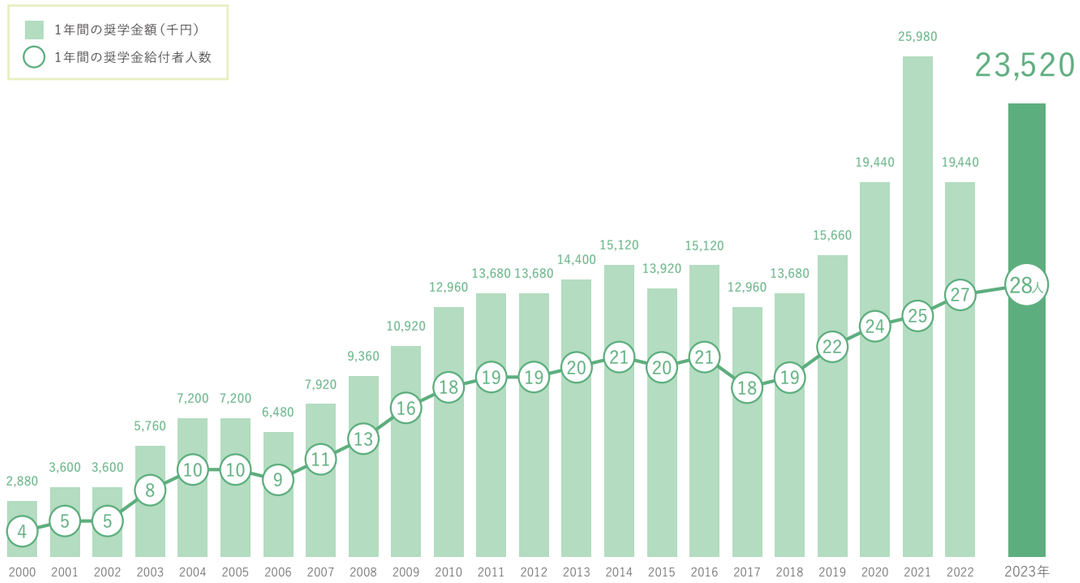
奨学金事業は、1990年に月額6万円の貸与（たいよ）としてスタートし、2010年から給付型に変更しました。事業開始から33年間、金額は変えずに続けてきましたが、近年の急激な物価上昇に応じて、2023年度、給付額を月額7万円に引き上げました。奨学生の経済的な負担や不安が少しでも軽減し、勉強や研究に集中できることを願うとともに、今回の増額が奨学生の生活にどのくらい役立ったかについて調査する予定です。

津久井 南帆さん
国際医療福祉大学医学部医学科6年

＼奨学生からの声／

昨年度は奨学金を増額いただき本当にありがとうございました。節約をしていても光熱費の請求が普段より高額な時もありましたが、安心して生活を送ることができています。5年次は進級試験もあったのですが、大事な時期にアルバイトを探すようなこともなく、勉学や臨床実習に集中し、無事進級することができました。感謝を忘れず、最後の一年間も充実したものにできるよう努めます。

これまでの実績［医学生に対する奨学金と給付者の推移］



※1990年から貸与型、2010年から給付型を開始し、2015年からは給付型のみ

3 小児医学川野賞

2023年度は基礎医学5名・臨床医学11名・社会医学3名の応募があり、2023年12月10日に実施した選考委員会の結果、3名の研究者に小児医学川野賞を贈呈しました。2024年3月2日には都内会場にて、贈呈式および記念講演会を開催しています。

受賞者一覧

分野	氏名	所属機関	研究テーマ
基礎医学	岡田 賢	広島大学大学院医系科学研究科小児科学	先天性免疫異常症の病因病態解明
臨床医学	菱木 知郎	千葉大学大学院医学研究院小児外科学	小児肝腫瘍の予後改善と副作用軽減を目指した治療開発
社会医学	竹内 章人	岡山医療センター新生児科・小児神経内科	NICUを退院した児の発達・発育フォローアップに関わる疫学や新生児神経学

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

受賞者コメント

基礎医学　岡田 賢先生

小児医学川野賞（基礎医学分野）を受賞し、非常に光栄に感じています。約20年間にわたり取り組んできた先天性免疫異常症の基礎研究が、評価されたことを喜んでいます。今回の受賞を励みにして、今後も一層の研究活動に尽力し、小児医療の発展に寄与できればと考えています。

臨床医学　菱木 知郎先生

この度は名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。私は小児外科医として小児がんの診療と研究に取り組んでまいりました。今回その取り組みをご評価いただいたことはたいへん光栄です。今後も小児がんの診療と研究を通してお子さんたちの明るい未来に貢献できれば幸いです。

社会医学　竹内 章人先生

栄誉ある小児医学川野賞をいただき大変光栄です。NICUを退院したお子さんたちのその後をサポートしていくための研究をご支援、ご指導いただいた皆さま、ともに研究を行っていただいた共同研究者の方々に感謝申し上げます。子どもの発達ということを軸に社会のありようについても想いを巡らせながら、研究成果を社会に還元していけるように今後とも尽力していきたいと思います。

これまでの受賞者

回 / 年度	分野	氏名	所属機関
第1回 2000年度	ー	奥山 眞紀子	埼玉県立小児医療センター保健発達部精神科
第2回 2001年度	基礎医学	林 泰秀	東京大学医学部小児科
	基礎医学	長谷川 奉延	慶應義塾大学医学部小児科
	臨床・社会医学	平岡 政弘	福井医科大学小児科
第3回 2002年度	基礎医学	廣瀬 伸一	福岡大学医学部小児科
	臨床・社会医学	大井 靜雄	東京慈恵会医科大学脳神経外科学講座
第4回 2003年度	基礎医学	緒方 勤	国立成育医療センター研究所小児思春期発育研究部
	臨床・社会医学	吉川 徳茂	和歌山県立医科大学小児科
第5回 2004年度	基礎医学	斎藤 博久	国立成育医療センター研究所免疫アレルギー研究部
	臨床・社会医学	加治 正行	静岡県立こども病院内分泌代謝科
第6回 2005年度	基礎医学	伏木 信次	京都府立医科大学大学院医学研究科分子病態病理学
第7回 2006年度	基礎医学	大橋 十也	東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所遺伝子治療研究部・同小児科
	臨床・社会医学	夏目 長門	愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター
第8回 2007年度	基礎医学	峯岸 克行	東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学
	基礎医学	塚原 宏一	福井大学医学部附属病院小児科
	臨床・社会医学	山髙 篤行	順天堂大学医学部小児外科
第9回 2008年度	基礎医学	金子 英雄	岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター
	臨床・社会医学	小崎 健次郎	慶應義塾大学医学部小児科学教室
第10回 2009年度	基礎医学	深尾 敏幸	岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学
	臨床・社会医学	髙橋 幸利	静岡てんかん・神経医療センター臨床研究部
第11回 2010年度	基礎医学	先崎 秀明	埼玉医科大学国際医療センター総合周産期母子医療センター小児循環器部門
	臨床・社会医学	海老澤 元宏	相模原病院臨床研究センターアレルギー性疾患研究部
第12回 2011年度	基礎医学	下澤 伸行	岐阜大学生命科学総合研究支援センターゲノム研究分野
	臨床・社会医学	川崎 幸彦	福島県立医科大学小児科
第13回 2012年度	基礎医学	福田 誠司	島根大学医学部小児科学
	臨床・社会医学	加藤 光広	山形大学医学部附属病院小児科
第14回 2013年度	基礎医学	滝田 順子	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学小児科
	臨床・社会医学	浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター
第15回 2014年度	基礎医学	滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野
	臨床・社会医学	髙橋 謙造	帝京大学大学院公衆衛生学研究科
第16回 2015年度	基礎医学	田島 敏広	自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科
	臨床・社会医学	家入 里志	鹿児島大学学術研究院医歯学域医学系小児外科学分野
第17回 2016年度	基礎医学	北中 幸子	東京大学大学院医学系研究科小児医学講座
	臨床・社会医学	野津 寛大	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
第18回 2017年度	基礎医学	竹田 誠	国立感染症研究所ウイルス第三部
	基礎医学	深見 真紀	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部
	臨床・社会医学	森岡 一朗	神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
第19回 2018年度	基礎医学	道上 敏美	大阪母子医療センター研究所環境影響部門
	臨床・社会医学	酒井 康成	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野小児科学
第20回 2019年度	基礎医学	川井 正信	大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門／消化器・内分泌科
	臨床医学	武内 俊樹	慶應義塾大学医学部小児科
	社会医学	頼藤 貴志	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野
第21回 2020年度	基礎医学	安友 康二	徳島大学大学院医歯薬学研究部（医学域）
	臨床医学	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
	臨床医学	笠原 群生	国立成育医療研究センター臓器移植センター
第22回 2021年度	基礎医学	鏡 雅代	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部臨床内分泌研究室
	臨床医学	難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科
	社会医学	森崎 菜穂	国立成育医療研究センター社会医学研究部
第23回 2022年度	基礎医学	三宅 紀子	国立国際医療研究センター研究所疾患ゲノム研究部
	臨床医学	小林 徹	国立成育医療研究センター臨床研究センターデータサイエンス部門
	社会医学	岡田 あゆみ	岡山大学学術研究院医歯薬学域（小児医科学）

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

開催レポート

2023年度助成研究成果発表会・川野賞贈呈式および記念講演会

―冒頭では選考委員 坂本穆彦先生（大森赤十字病院顧問）による講演も―

2023年度は2024年3月2日に都内会場にて対面形式にて開催をいたしました。当日は約50名の方が会場に足を運んでくださり、盛会のうちに終えることができました。また、会冒頭には当財団選考委員の坂本穆彦先生に、東日本大震災による原発事故後に始まった福島県県民健康調査についてもご講演をいただきました。

坂本穆彦先生によるご講演

「福島原発事故による小児甲状腺がん発生の危惧について」

当財団選考委員の坂本穆彦先生は、東日本大震災による原発事故後に始まった福島県県民健康調査に長年携わっています。月日が経過するにつれ、事故の影響に対する社会の関心の風化が案じられていますが、原発事故は忘れてはならない教訓です。そこで、この度「福島原発事故による小児甲状腺がん発生の危惧について―福島県県民健康調査が現在明らかにできたこと―」と題して、ご講演いただきました。

坂本先生あいさつ

ご講演の様子

多くの研究者が参加

助成研究成果発表会

冒頭、川野幸夫理事長より当財団の設立背景や研究助成事業に込める想いなどあいさつがあり、その後、一般枠の助成金交付者による成果発表会がスタートしました。今回は、24名がそれぞれの研究の目的や意義、成果について発表を行いました。質疑応答の時間には、研究者同士の意見交換もされました。

理事長あいさつ

質疑応答の様子

発表を熱心に聞く参加者

川野賞贈呈式および記念講演会

桃井眞里子選考委員長より2023年度小児医学川野賞の選考について報告いただきました。川野幸夫理事長より各受賞者にトロフィーと賞状、賞金100万円が贈呈されたのち、基礎医学、臨床医学、社会医学の3分野において各受賞者が研究の成果、今後の方向性などについて講演を行いました。

選考委員長による報告

受賞者と理事長の記念撮影

受賞者に贈られるトロフィー

懇親会

川野賞贈呈式および記念講演会の後には、小児医学を志す当財団の奨学生4名を交え、研究者との懇親会も実施しました。共通の研究分野をもつ研究者同士や、研究者と奨学生が意見交換をする場面がみられ、有意義な機会となりました。

交流会冒頭の様子

研究者同士の交流

理事長と熱心に話す参加者

参加した発表者の声

自分の研究はニッチな分野と思っていましたが、思いがけなく似た分野の研究者がいて、交流もできて有意義であったし、励まされました。奨学生の方とお話しできたのも興味深かったです。助成金だけでなくこのような会を催していただけて心より感謝と敬服を申し上げます。

今回の成果発表会に参加させていただけて、本当によかったです。自分の研究の弱点もわかりましたし、他の先生方のご発表から次に向けてのアイディアがいくつもうかびました。今後も精進していきます。まことにありがとうございました。

4 医学会助成

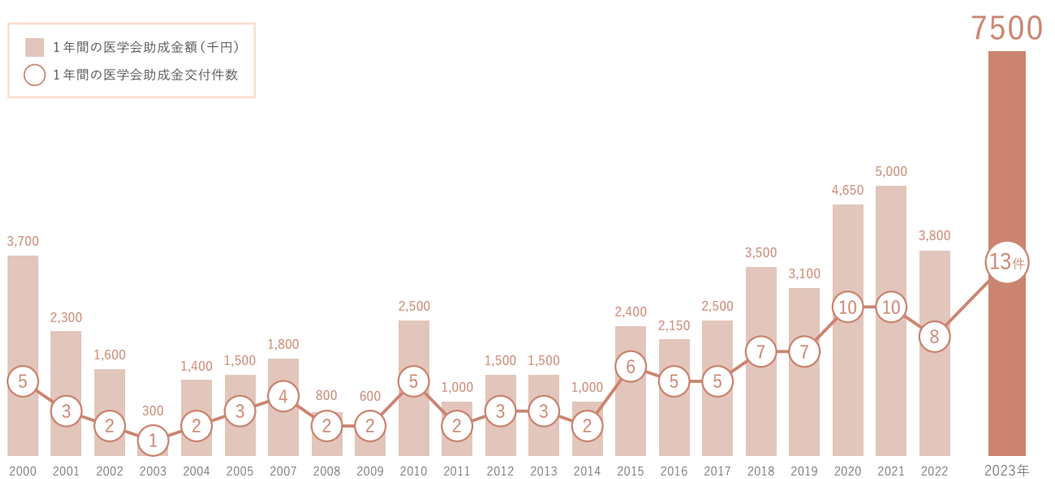
2023年度は13件の応募がありました。
選考委員による書類審査の結果、13件の医学会に対して総額7,500千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第 65 回　日本小児神経学会学術集会	2023年5月25日～5月27日	岡山コンベンションセンター	700
第 14 回　日本子ども虐待医学会学術集会	2023年7月1日～7月2日	尼崎市総合文化センター	700
第 34 回　日本夜尿症・尿失禁学会学術集会	2023年7月15日～7月16日	軽井沢プリンスホテル ウエスト	500
第 28 回　日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会	2023年7月17日	ナレッジキャピタルカンファレンスルーム	500
第 32 回　日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	2023年7月19日～7月21日	神戸国際会議場	700
第 36 回　日本小児救急医学会学術集会	2023年7月22日～7月23日	幕張メッセ 国際会議場	700
第 12 回　日本小児在宅医療支援研究会	2023年9月23日	大宮ソニックシティ	500
第 55 回　日本小児呼吸器学会学術集会	2023年10月7日～10月8日	芸術文化観光専門職大学	500
第 34 回　日本小児整形外科学会学術集会	2023年11月23日～11月24日	神戸国際会議場	700
第130回　日本小児精神神経学会学術集会	2023年11月25日～11月26日	かがわ国際会議場・情報通信交流館	700
第 50 回　日本胆道閉鎖症研究会	2023年12月1日～12月2日	順天堂大学小川秀興講堂	500
第 7 回　日本小児心臓 MR 研究会学術集会	2024年3月16日	アートホテル宮崎スカイタワー	300
第 7 回　日本免疫不全・自己炎症学会学術集会	2024年3月22日～3月24日	御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター	500
		合計	7,500

※開催日順

これまでの実績［医学会に対する助成金と交付件数の推移］



※1992年から開始　※2006年は、申請・助成無し　※交付決定後の辞退・返金を含む

5 小児医療施設支援

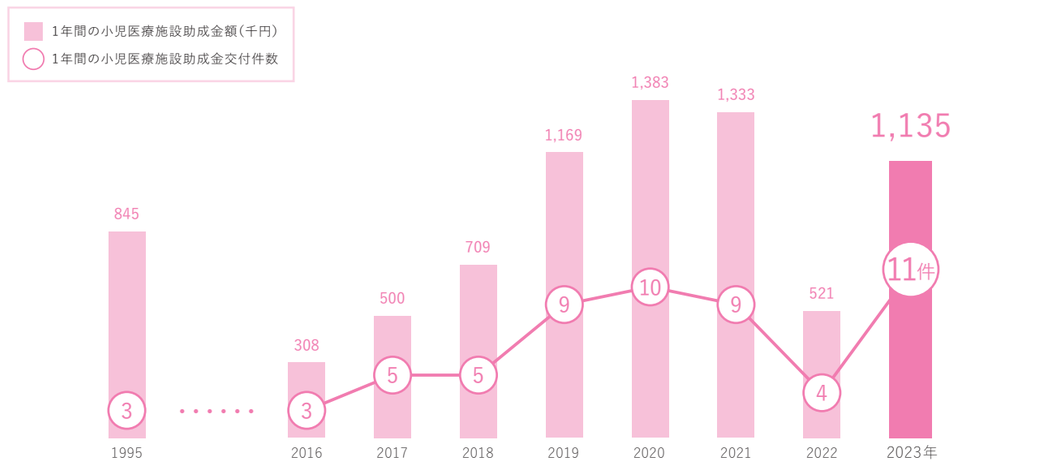
2023年度は12件の応募がありました。
選考委員による書類審査の結果、11件の小児医療施設に対して総額約1,135千円の助成金を交付しました。

助成先一覧

施設名	使 途	助成金額(円)
済生会川口総合病院	知育玩具・DVD プレーヤー・DVD・絵本	113,884
重症心身障害児施設聖母療育園	ハンモック・クッション・リラクゼーションインテリア	150,000
千葉県こども病院	知育玩具・DVD・絵本	148,346
帝京大学ちば総合医療センター	テレビ・DVD プレーヤー	88,000
東葛医療福祉センター光陽園	プロジェクター・DVD プレーヤー	130,240
東京女子医科大学附属八千代医療センター	知育玩具・ベビーチェア・キッズデスク・絵本ラック・DVD	147,859
東邦大学医療センター佐倉病院	DVD プレーヤー・CD プレーヤー・ボードゲーム・DVD	117,669
成田赤十字病院	玩具・ボードゲーム・イベント装飾品	44,992
深谷赤十字病院	絵本・玩具	25,859
船橋市立医療センター	絵本ラック	41,580
松戸市立総合医療センター	医療用玩具	126,500
	合計	1,134,929

※五十音順

これまでの実績［小児医療施設に対する助成金と交付件数の推移］



※1995 年から開始　※交付決定後の返金を含む

6 ドクターによる出前セミナー

2023年度は養護教諭向け13件・看護職向け3件のお申し込みがありました。
選考委員による審査の結果、15件に対して講師を派遣することを決定しました。保健室での救急処置や子どもの心に関する問題については、講演の希望が多く集まったため合同開催とし、計13件の研修会を実施しています。

講師＆受講者インタビュー

8月には、「発達障害の理解と支援～思春期を中心に～」をテーマに、対面形式の出前セミナーを実施しました。講師をしていただいた筑波大学名誉教授の宮本信也先生と、受講者を代表して東部高等学校保健会合同研修会の石原貴子先生に感想を伺いました。

■ 講師インタビュー

学校と医療が連携し
焦らず、長い目で
子どもたちと向き合いたい

筑波大学　名誉教授
宮本 信也 先生

Q 医療の現場で発達障害について感じることは何ですか？

最近、発達障害というワードを耳にする機会が多くなりましたが、以前と比較して発達障害の子どもの数が増えているとは感じていません。相談の数や問題が表面化するケースが増えたのだと思います。発達障害というのは、時代や社会、文化によって問題が出ない、あるいは周囲から問題にされないこともあれば、生活上の問題が顕在化して、周囲から問題視される場合もあります。例えば、文字の読み書きがなかなか身につかない子どもがいたとしても、それが400年前であれば全く問題にはされなかったはずです。「できて当たり前」の社会になって初めて、できないことが問題視され障害とされるのです。

Q 発達障害の子どもへの対応で大切なことは何でしょうか？

発達障害で見られる問題を「能力の問題」と「行動の問題」に分けて考える必要があると思います。「能力の問題」とは、言葉が出ない、読み書きが苦手など、他の子どもがそれほど苦労なくやれていることがなかなかできないというもので、知的障害、学習障害などが該当します。「行動の問題」とは、他の子どもには見られないような行動が頻繁に見られるもので、自閉スペクトラム症とADHDが該当します。前者は、訓練や教育で対応できますので、支援の中心は学校でよいと考えます。一方、後者は、福祉・教育の他に心理や医療などの多分野が連携した支援が大切です。こうしたことをきちんと整理して、発達障害イコールすべて病院にという風潮を考え直す必要があると思っています。

Q 今後、教育現場の方々と一緒に考えていきたいことを教えてください。

現場の先生たちが担任として直接子どもに向き合えるのは1年、2年という限られた時間のことが多いと思います。その期間で子どもを何とかしなければと思ってしまうと、子どもに変化が見られない場合、先生たちでも気持ちが落ち着かなくなることがあるのではないでしょうか。特に、行動問題の変化は数年の単位はかかることが多いように思います。もしすぐに変化が見られなくても、関わり続けることが1年後、2年後の変化につながります。子どもが「学校は楽しい」と感じられるように、うまくできないことが少なくなるよう手伝ってあげようという気持ちで関わっていただけるのがよいように思います。

■ 受講者インタビュー

子どもたちの支援に
役立てられる
専門医の貴重なお話

埼玉県立春日部高校　養護教諭
石原 貴子 先生

Q 発達障害について、教育現場で感じることは何ですか？

以前に比べて発達に特性がある生徒と触れ合う機会が増えており、また、特性も多様化しているように感じます。それにあわせて、学校でも彼らをどのように支援すればよいか話し合う機会も多くなっています。

支援においては、子どもたちが生活するうえでの困りごとをいかに減らすかを大事に考えています。発達に特性のある子どもたちは、学校生活の中で困りごとが多くなってしまうとどうしても不登校につながりやすい傾向にあります。彼らへのちょっとした声かけや接し方、配慮などについて理解を深めておけばより支援しやすくなると考え、セミナーで学びたいと思いました。

Q セミナーを受けてみての感想を聞かせてください。

宮本先生には、発達障害がある生徒を理解するために覚えておいた方がいいことや、彼らの特徴について事例を交えてわかりやすく説明していただきました。例えば、その場に示されていないことを推測するのが苦手なので、「あれ」「この前」ではなく「そのコップ」「先週の水曜日」などと具体的に伝えた方がいいことや、命令形で大きな声で伝えるのは避けた方がいいことなど、すぐに現場でもできることが多かったです。私自身が保健室でも実践していますが、今後は研修会などを開いて他の先生たちにも広めていければと考えています。

Q 今後、財団に期待することはありますか？

日頃から自主的に勉強会には参加するようにしていますが、やはり今回のセミナーのように直接ドクターから話が聞ける機会は貴重です。今回は対面で実施していただきましたが、オンラインであればもっと多くの人に貴重な話を聞いてもらえるのかなと感じました。オンラインと組み合わせるなど、開催の仕方についていろんな可能性を一緒に考えていただけたら嬉しいです。

開催一覧

実施日	テーマ「演題」	講 師	受講者数 実施形式	主催者
2023年 7月5日(水)	子どもの心に関する問題 「子どもの傷つきとともにあること -トラウマに気づき、声と力に光を当てる-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 70 名 対面	朝霞班 (朝霞･志木･新座･和光) 養護教諭研修会
2023年 7月24日(月)	子どもの心に関する問題「コロナから学ぶ、子どものウェルビーイング -傷つきとレジリエンスの視点から-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	約 40 名 対面	府中市学校保健連絡会 夏季研修会
2023年 7月25日(火)	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援～不登校問題も含めて～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	約 55 名 オンライン	児玉郡本庄市養護教諭研究会･保健主事研究会
2023年 7月26日(水)	子どもの心に関する問題 「第1部：不登校・保健室登校への対応～心と身体の居場所づくりの意味～ 第2部：神経発達症の児童生徒と家族への対応～特性に合わせた構造化と連携～」	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 小児医科学 准教授 岡山大学病院小児医療センター 小児心身医療科 科長 岡田あゆみ先生	約 60 名 オンライン	大里深谷養護教諭会／新座市立小・中学校養護教諭研修会 【合同開催】
2023年 8月1日(火)	保健室での救急処置 「第1部：緊急時 こんなときどうする? 第2部：やってみよう応急処置」	かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生 埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生 かわごえファミリークリニック 看護師　田村佳子先生	約 20 名 対面	行田市養護主任会
2023年 8月4日(金)	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援～思春期を中心に～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	約 40 名 対面	東部高等学校保健会 合同研修会
2023年 8月22日(火)	子どもの心に関する問題「起立性調節障害(Orthostatic Dysregulation:OD)ってなんですか?」	さいたま赤十字病院小児科 部長　佐藤有子先生	約 45 名 対面	熊谷市養護部会
2023年 8月24日(木)	保健室での救急処置 「せーご先生が保健室にいたら児童生徒の症状にどう対処するだろう?」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授　是松聖悟先生	約 45 名 オンライン	春日部市養護教諭部会 夏季研修会／定時制･通信制地区研修会 【合同開催】
2023年 11月17日(金)	その他 「子どもと一緒に学ぶ性教育」	産婦人科医 遠見才希子先生	約 40 名 オンライン	立川市立公私立合同 保健会議内研修
2023年 11月19日(日)	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援～幼児期を中心に～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	約 60 名 オンライン	全国保育園保健師看護師連絡会
2023年 12月5日(火)	保健室での救急処置 「第1部：緊急時 こんな時どうする? 第2部：いざとなったら応急処置」	かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生 埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生	約 160 名 対面	埼葛養護教員研究会 全体研修会
2024年 2月8日(木)	保健室での救急処置 「応急処置、実際にできますか!」	かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生 埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生	約 40 名 対面	上尾市養護教諭部会
2024年 2月18日(日)	園内・施設内での救急処置 「子どもの急病!病院受診前にすることが命を救う」	埼玉医科大学総合医療センター小児科 教授　是松聖悟先生	約 80 名 オンライン	北海道保育園看護職連絡会研修会

※開催日順　※講師の所属先および役職は実施日時点のもの

2024年度中の募集について

2024年度は以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。

募集概要（予定）

2024年度 小児医学川野賞

対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2025年3月31日時点で55歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕 彰	賞状、トロフィーおよび賞金100万円
募集期間	2024年8月～10月末頃予定

2024年度 小児医療施設支援

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 原則として埼玉県または千葉県の県内にある入院病棟を有する医療施設または医療型入所施設 (2) 2021年度以降に当財団の「小児医療施設支援」事業で助成金を受けていないこと
助成内容	15万円以内／件
募集期間	2024年8月～10月末頃予定

2025年度 医学会助成

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が2025年4月1日～2026年3月31日であること
助成内容	70万円以内／件
募集期間	2024年8月～10月末頃予定

2025年度 研究助成

対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、臨床および社会医学的研究。ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事していること (2) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (3) 2022年度以降に当財団の「研究助成」事業で助成金を受けていないこと (4) 若手枠の場合は、2025年3月31日時点で40歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉300万円以内／件　〈若手枠〉100万円以内／件
募集期間	2024年9月～11月末頃予定

2025年度 奨学金給付

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 身体が健康であり、気質および素行ならびに学業が良好である者 (2) 埼玉県または千葉県の県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生 (3) 学長、副学長、または学部長の推薦を受けている者 (4) 当財団の定める給付者の義務を果たすことができる者
給付内容	月額7万円以内
募集期間	2025年2月～4月末頃予定

2025年度 ドクターによる出前セミナー

セミナーテーマや申込資格、申込方法については当財団ウェブサイトをご覧ください!

おわりに

私は1982年の秋に、当時小学校2年生だった長男の「正登（まさのり）」を、
ウイルス性脳炎という病気で亡くしました。
いまもって信じられないほど、あっという間の出来事でした。
それまでの私は、仕事のことしか頭にありませんでしたから、
家族との生活の場は相当おろそかになっていたと思います。

正登が亡くなって、「あの子は、お父さんを求めていた」と妻から聞かされ愕然としました。
そして、人の親としてあの子に何もしてやれなかったことを、
つくづく悔やみましたが、後悔は先に立ちません。
未だに正登には、本当に申し訳ないことをしてしまったと心で詫びている毎日です。
このような出来事が背景にあって、この川野小児医学奨学財団が設立されました。

申すまでもなく、子どもたちの無邪気な笑顔や素直な動作が世の中を明るくし、
私たち大人の心を和ませてくれます。
また、わが国や世界の将来を担ってくれるのも同じ子どもたちです。
そのかけがえのない大切な子どもたちが、明るく健やかに成長してくれることは、
親だけでなく等しくみんなの願いです。

日本においては小児医学・医療の劇的な進歩により、
新生児死亡率は世界でも1、2を争うほど低い状況になり、子どもたちの健康も増進されました。
しかし、時には正登のようなことも起こります。
また昨今では、医療的ケアを必要とする子どもや若年層の自殺者、児童虐待の増加など、
子どもを取り巻く問題が尽きることはありません。
当財団の使命は、どのような時代においても子どもたちの健やかな成長を実現することです。
そのために、これからも、多種多様な方々とともに一年一年歩んで参りたいと思います。
引き続き、あたたかいご指導とご支援を、よろしくお願いいたします。

理事長
川野幸夫

ご寄附のご案内

子どもたちの健やかな成長を願って、ともに小児医学・医療の発展を支援してくださる皆さまからの
ご寄附をお待ちしております。大切なご寄附は、小児医学研究者への研究費支援や、
小児医学を志す医学生への奨学金給付などに使用させていただきます。

ご寄附の方法

1 以下いずれかの方法にてお申込みください。

◆申込書（Word版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより寄附申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、
メール添付（PDF）・ご郵送・FAXのいずれかにて以下までお送りください。

メール添付の方　info@kawanozaidan.or.jp
ご郵送の方　〒350-1124 埼玉県川越市新宿町1-10-1 公益財団法人川野小児医学奨学財団 事務局宛
FAXの方　049-246-7006

◆申込フォーム（Webフォーム版）をご利用の場合
当財団ウェブサイトより申込フォームにアクセスいただき、必要事項をご入力の上、お申込みください。

2 銀行等よりご寄附をお振込みください。
3 受領証明書が必要な方にはご入金確認後、受領証明書・寄附控除のご案内をお送りいたします。

寄附金申込書

◆申込書（Word版）

◆申込フォーム（Webフォーム版）

寄附金にかかる税制上の優遇措置

当財団にご寄附いただいた方は税金の控除等、優遇措置が受けられます。

個人の方　ご寄附をされた翌年の確定申告時に当財団発行の受領証明書を添付し、所轄の税務署等にご申告ください。
法人の方　ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください。

応援メッセージ

東京都 70代女性
子どもは国の、いえ世界の「宝」！
ひとりひとりが幸せになりますように
との願いを込めて、
これからも財団の皆さまのご活躍を
応援して参ります。

埼玉県 50代男性
小児医学における将来の担い手を増やし
環境を整えることで、
元気な子どもたちを増やしていきたいと
の想いに賛同し、微力ながらお力添えが
できれば幸いです。

沿革

1989（平成元）年	埼玉県の認可を受け、財団法人川野小児医学奨学財団を設立
1990（平成2）年	研究助成および奨学金貸与事業を開始
1992（平成4）年	医学会助成事業を開始
1995（平成7）年	小児医療施設支援事業を開始
1999（平成11）年	財団設立10周年を記念して、小児医学川野賞を創設
2001（平成13）年	特定公益増進法人に認定
2007（平成19）年	研究助成事業に若手枠（40歳以下）を追加
2010（平成22）年	奨学金給付事業を開始
2012（平成24）年	公益財団法人に移行
2019（平成31）年	行政庁を埼玉県から内閣府に変更 財団設立30周年を記念して、ドクターによる養護教諭のための出前セミナー事業を開始
2021（令和3）年	奨学金給付事業の対象に千葉県内高校卒業者を追加 ドクターによる出前セミナー事業の対象に就学前教育・保育施設の看護職を追加
2022（令和4）年	小児医療施設支援事業の対象に千葉県内にある施設を追加

当財団のロゴマークは、理事長の長男が亡くなった時に流れたであろう涙の滴の形をベースとしています。同時に、その時から当財団が抱き続けている「小児医学に関わる多様な人々の支えにより、多くの子どもの明るく健やかな成長を実現したい」という想いをハートと点で表しています。

役員・選考委員一覧

[理 事]

理 事 長
川野 幸夫
株式会社ヤオコー 代表取締役会長

川野 光世
株式会社川野商事 代表取締役

吉野 芳夫
伊藤忠商事株式会社 理事

新井 一
学校法人順天堂 理事長補佐

桃井 眞里子
自治医科大学 名誉教授
信州大学医学部 客員教授

上池 昌伸
株式会社ヤオコー 専務取締役

[監 事]

杉田 圭三
株式会社 CWM 総合経営研究所 取締役会長

原 敏成
武州ガス株式会社 代表取締役社長

[評議員]

川野 清巳
株式会社ヤオコー 相談役

川野 澄人
株式会社ヤオコー 代表取締役社長

利根 忠博
株式会社埼玉りそな銀行 元会長・社長
埼玉県民共済生活協同組合 理事長

村井 満
公益財団法人日本バドミントン協会 会長
公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ） 名誉会員

髙篠 包
髙篠・柿沼法律事務所 弁護士

豊田 友康
株式会社メディパルホールディングス 監査役

※敬称略・順不同

[選考委員]

雨宮 伸
埼玉県社会福祉事業団嵐山郷 参与
埼玉医科大学病院小児科 客員教授

岡 明
地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター 病院長

奥山 眞紀子
社会福祉法人子どもの虐待防止センター 理事
山梨県立大学大学院人間福祉学研究科 特任教授

加藤 則子
十文字学園女子大学教職課程センター 特別任用教授

● 椛島 香代
文京学院大学人間学部 教授学長補佐（教育課程改革担当）
教職課程センター長

河合 佳子
東北医科薬科大学医学部生理学教室 教授

河野 陽一
地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 理事長

坂本 穆彦
大森赤十字病院 顧問
福島県立医科大学医学部 特任教授

城 宏輔
医療法人すずき小児科 名誉院長

林 泰秀
群馬県立小児医療センター 顧問
上武大学医学生理学研究所 客員教授

桃井 眞里子
自治医科大学 名誉教授
信州大学医学部 客員教授

山縣 然太朗
国立成育医療研究センター成育こどもシンクタンク 副所長
山梨大学大学院総合研究部附属出生コホート研究センター 特任教授

● 山﨑 章子
埼玉県立浦和高等学校 養護教諭
埼玉県養護教諭会 顧問

※敬称略・五十音順　※●はドクターによる出前セミナー事業の選考委員

2024年6月21日現在

発行日：2024年7月5日　発行人：川野紘子　アートディレクション：古谷萌　デザイン：五十嵐淳子
撮影：荒井隆之（P12 P14-17）、山本あゆみ（P1-7 P20-21）　取材・執筆協力：glassy&Co.・志村江（P5-6 P20-21）

川野正登記念 公益財団法人
川野小児医学奨学財団

〒350-1124
埼玉県川越市新宿町 1-10-1
Tel：049-247-1717
Fax：049-246-7006
Mail：info@kawanozaidan.or.jp
Url：www.kawanozaidan.or.jp
FB：https://fb.com/KawanoZaidan

「Climb」というタイトルは、財団設立のきっかけとなった
正登（まさのり）さんの名前にちなんでつけられました。